

◆安全配慮義務、果たせ
ていますか?
労働安全衛生法に基づ
く、事業主に課せられた安
全配慮義務を遂行しなけれ
ば、経営までも揺らいでし
まうという現実、もうニ
ユースの中の「対岸の火事」
ではありません。そして義
務を達成するためには、事
業主は定期健康診断結果に
基づき、再検査、精密検査
さらに受診までの指導と、
その結果に基づく就業上の
措置を取らなければならな
いことも、もう周知の通り
です。

◆「うちには(健診を)
全員受けさせていますよ」
と、受けていることばかり
に胸を張り、従業員の健康
状態(ハイリスク者)が見
えていない事業主の何と多
いことか…。大変残念なが
ら、これが多くの運輸業の
実態です。

◆募集枠はもう残りわず
か?
そこで、そのような健診
の「受けっぱなし」の現状

を何とか打破できないかと
OCHIISが立ち上がり、
ハイリスク者の見える化を
目指して構築したのが、定
期健康診断の事後フォロー
を目的とした「運輸ヘルス
ケアナビシステム」です。
そして本システムは、全ト
協の事業者への実践的健康
支援の第1弾として、6月
より実証実験をスタートし
ています。当然、本システ
ムを構築し、「トラック運
送事業者のための健康起因
事故防止マニュアル」(発
刊・全ト協)の制作に携わ
り、長年トラック業界の健
康サポートに携わってきた
OCHIISが事業受託して
います。

さて、実証実験の募集は
40社2千人ですが、社数枠
は残りわずか、人数枠はす
つながるハイ
リスク者を早
期発見・治療
につなげるこ
とを目的とし
た制度です。
(*システム

でオーバーしている。
紙ベースで預かった、フォ
ーマットがバラバラの健診
結果が、「運輸ヘルスケア
ナビシステム O〇会社」
と印字された1枚のCDに
なって、順次納品されてい
るのです。

そこで、本システムから
見えてきた、あるトラック
事業者の健診結果について
述べたいと思います。

寄稿

NPO法人・ヘルスケア
ネットワーク(OCHIIS)

作本

貞子 副理事長



(*システム

では赤★印)
2. 健診結果から何らか

全ト協の健康管理支援事業 「運輸ヘルスケアナビシステム の実証実験」から見たもの

の所見(再検査・精密検査
・治療)のある人は、72人
(52%)でした。(★システ
ムでは赤と紫の●印)

3. 睡眠時無呼吸症候群
(SAS)の疑いのある人
は23人(16%)でした。

4. LDLコレステロー
ルの有所見者は76人(59%)
と検査項目の中で最も多
く、2人に1人が該当。そ
してその中の多くの人に血
圧や血糖項目等にも赤●印
が。つまり複数の異常値を
併せ持っているハイリスク
者の該当者であることも浮
上りました。

5. 血圧178/114
という人がまず目に留まり
ました。とんでもない高血
圧に加え、BMI30という
超肥満。40代後半という年
齢を考えると「いつ倒れて
もおかしくないかも」との
不安がよぎりました。

6. 視力、聴力の悪い人
も少なからずいました。こ
れらは運輸業務に直接関係
すること。そしてドライバ
ーの高齢化が目前であるこ
とを考えると、見落として
はならない重要ポイントと
いえます。

このように紹介するとA
社の健康状態は一見劣悪の
ように思われがちですが、
他社に比べると全体の有所
見率、SAS確率など実は
低いほうなのです。念のた
め。

◆問診票の落とし穴
さらに他社のケースで
は、大変なことが見えてき
ました。それは健診受診時
に問診票で「受診中」と記
入した人は、たとえ健診結
果が悪くても(コントロール
できていなくても)検査
機関からの報告書では有所
見者リストから外れてしま
っていてノーマークである
ことが分かりました。では
なぜそのことが判明したの
か…。それは健康起因事故
が起きたからです。これで
は、思わぬ落とし穴に落ち
ることになりますので、本
システムの活用による改め
てのチェックが必要である
ことを意味します。

◆活用の応用編(事業所
のカルテ)
本システム化は、個人の
リスク見える化にとどまら
ず、事業所全体の健康度
や、データに基づく安全・

健康対策のポイントが明確
になるという点に大きな特
徴があります。そして、従
業員の健康状態をひとまと
めにした、1枚の「事業所
カルテ」はそっくり会社の
ハッラツ度や元気度をも表
していると思えてよいので
はないでしょうか。もちろ
ん安全・健康対策に向けて
の重要ポイントの可視化
や、安全衛生委員会資料や
社内報へのフィードバック
にも活用いただけます。

◆今後の展開
筆者自身、ハイリスク者
の見える化が前述のように
イメージ通り達成できたこ
とに大変満足しています。
今後は、見えたハイリスク
者をスムーズに受診や生活
習慣の改善につなげるこ
とができるようなシステム、
点呼時に健康情報が生かさ
れるようなシステムをさら
に積み上げていくことがで
きればと思います。

最後に、本システムが管
理者の手足となり、現場に
落とし込まれるようになれ
ば、必ずや健康起因事故は
減少すると確信するもので
す。

健康対策のポイントが明確
になるという点に大きな特
徴があります。そして、従
業員の健康状態をひとまと
めにした、1枚の「事業所
カルテ」はそっくり会社の
ハッラツ度や元気度をも表
していると思えてよいので
はないでしょうか。もちろ
ん安全・健康対策に向けて
の重要ポイントの可視化
や、安全衛生委員会資料や
社内報へのフィードバック
にも活用いただけます。